会議録（要点筆記）

会議名	みやま市まち・ひと・しごと創生会議　令和元年度第２回会議
開催日時	令和元年７月２４日（水） 午前１０時００分～正午
開催場所	みやま市消防署　１階　会議室
会議次第	１　開会 ２　議事 （１）報告事項 ① 第１回会議録（要点筆記）について ② 第１回会議の質問事項に対する回答 （２）協議事項 ① ワークショップ（意見交換） ② まち・ひと・しごと創生基本方針２０１９について ３　閉会
委員出席者	松尾 清、境 国子、内田 和実、原口 唯、柴田 廣孝、中村 和也、田中 聖仁、大賀 茂功、富重 真由美、末吉 達二郎、中尾 眞智子、宮本 五市
欠席者	武藤 将充、飯野 直美、髙島 雄三、河野 貴栄、中尾 眞智子
事務局	堤企画振興課長、宮川企画・地方創生係長、堤 直之
傍聴者数	１名
会議資料	・資料１会議録（要点筆記） ・資料２第１回地方創生会議質問事項

１．開会

＜内田会長より開会＞

２．議事

（１）報告事項

①第１回会議録（要点筆記）について

【会　長】　　事務局より説明をお願いします。

＜事務局より、以下の説明＞
第１回会議録（要点筆記）について説明

【会　長】　　何か質問、意見ありましたらお願いします。

②　第１回会議の質問事項に対する回答

【会　長】　事務局より説明をお願いします。

＜事務局より、以下の説明＞
第１回会議の質問事項に対する回答について説明
１の「学校教育の充実に関するＫＰＩ」のみ教育委員会より説明

【教育部】　今回、学校教育の充実に関するＫＰＩについて見直したいので、説明します。

新学習指導要領が、小学校では令和２年度から、中学校では令和３年度から完全実施されることになっています。新学習指導要領では、育成すべき資質能力として、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学び合う力・人間性」が挙げられ、その調和の取れた子どもたちを育成していくことになっています。また、この中では、「主体的・対話的で深い学び」の実現も挙げられているところです。そのためには、教師の授業改善を進めるとともに、なにより、子どもたちにとって、「学びたい学校、楽しい学校」となることが、学力の向上につながると考えているところです。そこで、「学校の授業は楽しいですか」というアンケートの結果、授業は楽しいと答えた児童・生徒の割合を新しい指標に追加したいと考えております。

次に、新学習指導要領の中では、キャリア教育の充実をめざしています。子どもたちが将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成することが求められています。教育委員会では、子どもたちが早くから、将来の夢や目標を持って、職業について考えることや、自分の適性や職業観や、社会の一員としての意識を高めることを教育活動全体で推進していきます。

そこで小中学校の９年間で育成するという方針で、小中連携をはかりながら、義務教育の最終的な出口における進路の実現と、また学習の成果として、「第１志望の高校への進学率・達成率」を二つ目の指標として考えているところでございます。

最後に、現在指標の一つとなっております「全国学力学習状況調査」につきましては、昨年の会議でも教育委員会の考えを申し上げました

が、これは調査結果を教育施策に、学校での指導改善につなげることにあります。また、この調査は対象が中学３年生と小学６年生とされていることや、調査科目も限られており、全児童生徒の学力の一局面でしかないことから、子どもの学力をこの数値だけでは把握することはできないと考えております。そこで、このようなことからも「全国学力学習状況調査」につきましては、今年度をもって、総合戦略のKPIから外させていただきたいと考えております。指標からは、外させていただきますが、引き続き、「全国学力学習状況調査」や全学年で実施しております学力調査につきましては、各学校に指導助言を行い、授業改善・指導改善に活かすとともに、子どもたちの学力向上のために努めてまいります。

教育委員会としましては、今後も学力・知識量だけではなく、生きていくための知恵や社会性、また生きる基盤となります総合的な学校教育を推進してまいります。

【会　長】　質問ありませんか。

【委　員】　楽しい学校というのは、教科が楽しいということではなくて、教科を含めて、総合的に学校全体が楽しいということなのかお聞きします。

【教育部】　あくまでも授業の部分で楽しいかどうかというのを指標としてあげるものです。アンケートを取る際は、学校全体が楽しいのかという内容も含んで実施できればと考えております。

【委　員】　授業が楽しいということは当然学校が楽しくなるということで、目標としては非常にいいと思います。

キャリア教育の充実について、「第一志望の高校への進学率」との関連性を教えてください。

【教育部】　キャリア教育について、新しい学習指導要領では、小学校においても、特別活動の中で指導することになっています。内容につきましては、自分の良さを活かしながら、自分の進路選択を進めていく。学ぶことと自分が働くことについて関連をつけながら、学んでいくことの大切さを、そして自分の良さを活かして将来仕事に就くとか、自立していくとか、そういう力を身につけさせていくものです。小学校から、自分の夢や目標をもって、キャリア教育ということで能力を育み、結果として９年間の出口である高校の進学ということで、一つの指標を示しています。

【委　員】　みやま市は教育のまちということで、他市からも注目されています。「第一志望の高校への進学率」ということは、どの段階で調査をされますか。指標として第一志望はどこの高校というのを取らないといけないですよね。小学校あたりで県立高校、私立高校というイメージは、まだまだ醸成しないと思います。例えば中学１年生の後

期にとるとか、どのように考えていますか。

【教育部】　「第一志望の高校への進学率」の考え方ですが、ほとんどの生徒が高校に進学する状況になっています。そこで子供たちが受験した学校に、合格したかということで、合格をした後に、結果として達成率をみるということにしております。第一志望という考え方ですが、子供たちが受験校を決定するということで、３年生の三者面談等の時点で受験したいといった高校と考えております。

中学校１年生の段階ですと、どのような高校があるのか、自分がどの高校に行きたいのかという明確な意識はまだあいまいなままでございます。そこでもデータとしては取るようにということは指示していますが、やはり自分の進学、進路が明確になってくるのは、中学３年生ということになりますので、継続して志望校は調査をしてまいりますけれども、この指標が達成したかどうかにつきましては、本気で受験校を考える中学校３年生ということで考えております。

【委　員】　３年生は自分にはどこの高校かなということは、意識し始めてくるころだと思います。その意味ではいいですが、向上心を持った子供を育てるというキャリア教育ということで、そういうことでいけば、２年生の中間くらいで努力というものが出てくると思います。３年生ということなら、指標が９０％というのはもっと上げていいのではないかと思います。だいたい合格しそうな高校を受験しますよね。率が少し悪くても、子供に努力をしてもらうということなら、２年生の半ばくらいまでには進路をはっきりさせて、そこにいかに取り組んで達成させるということが、この指標として大事になってくると思いますが、いかがですか。

【教育部】　中学校１年生から３年生まで継続して、志望校のアンケートを取っていきます。進学率の考え方としては、ほとんど１００％に近い進学率になると思いますが、高校の専願と併願というのがありまして、私立高校への専願の率が非常に高くなっている現況です。併願したいが、専願にせざるを得なかったという子もいます。そのような考え方でいくと、私立専願にせざるを得ない子供たちの率を下げていくと考えることで、また学力を上げる、学力を上げるためには授業改善につなげていく。と考えているところでございます。

【委　員】　最終的には学力テストの指標をはずす理由は何かということをお聞きします。対象者が毎年変わってくるとか。それよりも、１学年、２学年、３学年それぞれの生徒たちの学力がどう推移しているのかということをすべて把握はしていきますとか。学力テストについては指標からはずすことについては私も賛成します。

【教育部】　同一集団の変容を見ていくことが大切だと考えます。本市では小

学校で全員学力標準検査を受けております。その変化をとらえ、指導に生かしている。中学校においては、業者テストが年に３、４回ありますが、全部の子供たちが受けていますので、その変化について、これも小学校と同じように変化をとらえて、要因、そして改善につなげております。

【会　長】　私としては、学力に関するなんらかの指標はあった方がいいのではないかと思います。親御さんにとっては、この地域の小学校、中学校の学力のレベルがどの程度なのかということは気になると思います。結果を公表されてあるわけですから。学力の数値を指標にするのはしかるべきではないかと思います。

【教育部】　学力学習状況調査の指標は総合戦略からは外すということにしておりますが、指導室としての目標には掲げておりまして、学校としても掲げております。

【会　長】　私は総合戦略の KPI としても残した方がいいと思ったのですが、そう決定されてあるなら結構です。

【委　員】　「学校の授業は楽しいですか」という質問ですが、どのような観点で授業が楽しいのかと考えてありますか。一概に楽しいということだけをとらえられると、その数字が独り歩きする心配をしておりますので、具体的にどのような聞き方になるのかが気がかりな面があります。

【教育部】　楽しいというとらえ方については、授業というのは子供たちが学校で過ごすうえで一番長いものでございますので、授業は楽しいですかの中身については、子供たちに説明するときに詳しく言いながら、アンケートを取るべきかと考えております。

【委　員】　その説明は先生がされますか。先生がされるとなると、個人で説明の仕方が違ってきます。アンケートの信ぴょう性が非常に低くなってくるかと思います。せっかくされるのでしたら、統一された形がいいかと思います。

【教育部】　アンケートを取るときに教師に指示をして、具体的に楽しいということはどういうことか、発達段階によって、楽しいというとらえ方が変わってくると思いますので、そういったことも考慮しながらとるべきかと考えております。学校が楽しいということの意味をアンケートの下の方に、項目を作って、どういったところが楽しいですかいうことも項目を取り入れていきたいと思います

【会　長】　これについては、授業評価という視点でやるのか、それとも授業

は面白くないけど、学校に来るのは楽しいとか、そういったところで枠を広げたところでやるのか、それは両方の視点であっていいのではないかと思います。

【委　員】　キャリア教育についてですが、現在、子どもの７人に一人が貧困だとか言われています。そういった子たちが、キャリア教育の充実したことを考えることができるのか。そういった子たちに、教育委員会としてどのような手立てをとられるのかお伺いします。

【教育部】　みやま市では数年前から「夢ノート」というものを作っています。年度のはじめに、１年間でどんなことを頑張りたいかとか、将来的にどのような職業に就きたいのか、夢を明らかにして、自分の良さをそこにファイルしながら、１年後に自分のやったことを振り返ったりするという取り組みを行っています。それがキャリア教育を進める上では、自分の良さを振り返って、見つめなおすということになるかと思いますので、それを一つの手立てとして考えております。

【委　員】　地域の仕事を担っていく子供たちに、みやまに帰ってきたいという子供たちを育てるためにも市が子供たちをどれだけ支えてくれるのか、貧困を解消できるのか、そういったことにどうつなげていただけるかということをお伺いいたします。

【教育部】　小学校から将来を見据えてということを進めていくわけですが、中学校では職業体験等しております。その中で、たくさんの大人の方と関わります。また、小学校から中学校にかけて、ふるさとの良さを学ぶ、という機会も共通して行っています。みやま市の良さを学ばせるということも、働くことの楽しさ、また自分の良さを活かすということを伝えていくということを考えております。また、本年度みやま市キャリア教育推進プロジェクトというものを立ち上げております。２年間ほどのプロジェクトで、小学校、中学校、高校まで通して、子どもたちのキャリア教育を進めるうえで大切なことを体系化して取り組んでいくことにしております。

【委　員】　全国学力学習状況調査の件ですが、次回からは指標からはずすということですが、学校現場のお話を聞く中で、公表されている平均点だけによって評価をされている。みやまとして公表をやめてはどうかと思いますが。

【会　長】　データを公表できる、できないという判断をできるのですか。

【委　員】　平均点にとらわれて、現場が委縮したらいけないということで、私が疑問に思うのは対象者が毎年変わる、そして、指標として出てくるのは平均値だということです。平均値を出すことの意味はないと思います。これをどうフィードバックするかが重要で、学校、保

護者、地域含んで、取り組んでいくことで指標が生きてくるのではないかと思います。活かし方によって、良い部分もあると思います。県のHPでも公表されているから、教育熱心な人は見ます。学校、保護者、地域三位一体で指標として生かしてもらいたいと思います。指標をどう生かすかが大切です。

【教育部】　公表についてはご意見として受けさせていただきます。

【委　員】　KPIを諮るのは施策の評価をするためだと思っています。施策項目として挙げられているものと、KPIの直接的な関係があまり見えないと思います。また、「第一志望への高校への進学率」と「学校の授業は楽しいのか」という指標を入れて、仮にこの数値が低かったというときに、どういった施策を次に予定されているのかをお伺いします。

【教育部】　進学率につきましては、子どもたちが本当に行きたい高校に行かせてあげるということにつなげていくものです。この高校に行きたいけれども、あっちの高校にせざるを得なかったということもあります。そうなると子供たちの幸福度も落ちてくるものと思いますので、行きたい高校にいくために専願をするという割合が非常に高くなっています。そのためには学力をつける、子どもたちが分かる授業をしていく取り組みをしていきます。また、楽しいですかというアンケート結果につきましては、子どものその時の気持ちにも左右されるものでもありますので、楽しいということの定義づけをして、補足をしていきます。またこの数値が低かった場合は、授業改善を進めてまいりたいと考えております。

【会　長】　ありがとうございました。ＫＰＩにつきましては、また議論する場があるかと思いますので、これで議論は切らせていただきたいと思います。

【委　員】　教育委員会にお願いしたいのが一つ。志望校は実現しない子もいる。だけど、強くなるのですよ。３年生でアンケートを取るなら９０％ではなくて、１００％でいいと思います。１年生は無理と思いますけど、２年生の初めくらいで取ってもらいたいと思います。

【会　長】　それでは残りの部分についてお願いします。

【事務局】　２．みやまスマートエネルギーの電力売上の市内分、市外分の内訳について、平成２９年度から平成３０年度にかけて高圧需要家（５０ｋｗ以上）及び低圧需要家（５０ｋｗ未満）ともに件数は増加している。特に法人については増加傾向にあり、平成２９年度が１，２１４件だったのに対して１，６０６件となっている。平成３０年度末の契約件数は、市内１，２９９件（３７％）、２，２３３件（６

３％）となっている。

３．みやま市の第一次産業について、農業産出額は平成２６年度は１１６億から平成２８年度は１１８億と増加している。一方、経営耕地面積はＨ１２年度の４，１０６ha から平成２７年度は３５２ha 減少して、３，７５４ha となっている。また、総農家数も平成１２年以降、一貫して減少傾向にあり、平成１２年の３，６６３戸から１，７３２戸減少して、平成２７年には１，９３１戸となっています。年齢別農業就業人口・構成比をみると、平成２２年から平成２７年にかけて、人口はいずれも減少していますが、６５歳以上の割合が４９．８％から５３．９％と増加しており、農業就業人口の高齢化が進んでいます。

４．ふるさと納税の今後の作戦について、「ふるさと納税」の取組みにつきましては、制度が始まった平成２０年度以降、１００万円台の寄附額で推移しておりましたが、返礼品の充実やインターネットによる申し込み方法の追加、カタログ等を活用したＰＲ活動などにより、平成２８年度からは寄附額も１億円台と大幅に増額することができています。今後のふるさと納税の戦略として、①魅力的な返礼品の追加（目標１００品目（現在は４５品目））、②寄附金活用事業の充実、③ＰＲの強化（ポータルサイトの改修、内外のみやま市出身者へのＰＲ、活用事例の周知等）に注力し、みやま市のふるさと納税制度の充実を図っていく予定です。

５．放課後児童クラブの待機児童が増えてきている要因について、放課後児童クラブに対する保護者のニーズが高まっており、入所希望者数が増加しているなか、施設面積及び支援員の不足解消が喫緊の課題となっています。施設については、現状の把握や今後の児童数の動向等みながら、整備が必要な分については計画的に進めていく必要があります。

６．児童公園の遊具の新設数について、毎年、市内児童遊園の遊具点検を業者へ委託し、その点検結果により撤去、修繕の計画を立てています。平成３０年度は３個の遊具を撤去、１９個の遊具を修繕しました。平成２９、３０年度に遊具の新設はしておりません。

７．市職員の市内外の居住の割合については、全職員は３７７人となっており、その内市内在住者が２２７人（６０．２％）、市外在住者が１５０人（３９．８％）となっています。

８．企業誘致の推進に関するＫＰＩ「雇用創出数」のうち、みやま市在住者は、４３人中６人となっています。

【委　員】　私が危惧するのは、第一次産業です。みやま市は第一次産業の市です。農業従事者が減少しており、農地を集約して効率的にやればそれなりの生産量とか、そこで雇用を生むとかはありますが、６５歳以上の年齢が５３．９％となっており、１０年先は農業に従事できないという話を聞きます。作付面積を減らさないとどうしようもないとか。第２期のまち・ひと・しごと創生総合戦略では、この農業分野はかなり検討してもらって、みやま版として作っていっても

らいたいと思います。

【事務局】　農業はみやま市の基幹産業です。農業従事者について、６５歳以上が半分以上を占める中、指標にありますように２７の法人を設置しているところです。１０年先はその方たちが７５歳以上になってくるということで、法人の運営の支援を、農林水産課が中心になってやっていくことになるかと思います。それに併せて、次期の戦略の中では、農林水産課と連携しながら、今後の農業についての考え方を入れながら、やっていきたいと思っております。

【委　員】　危機感を持って、次期の戦略に盛り込んでいただかないと、みやま市が崩壊すると思いますので、しっかり取り組みをお願いします。放課後児童クラブについて、施設面積・支援員の不足が喫緊の課題ですと、それに対して、児童クラブがポスターとかで募集で行っていますと。私は本質的な問題があると思います。

【事務局】　法人の方と現課の方と努力いたしまして、支援員の確保に努めたいと思います。また、支援員の不足の原因が何なのかということも分析をしながらやっていくような形で確保に努めていくべきではないかと思います。

【委　員】　前回、総合戦略の内容について、財政的な裏付けを取った上で、進めていくのかという質問をしていたと思いますが、これは国の補助を受けるためには、戦略に挙げておかないといけないという政策的な目的もあろうかと思います。それでも財政基盤を考慮した内容になっておかないといけないからですね。事務局の回答をお願いします。

【事務局】　予算、財政的な裏付けがあるものでいくのか、それともないものも入れていくのかということだったと思います。当然、財政的な裏付けというものは必要ですけれども、今後の総合戦略は令和２年度からの色々な施策の方向性を示すものになろうかと思います。予算を確保していくことを必要ですが、財政的な裏付けがなくても、策定段階においては、施策を掲載していきたいと考えております。市の予算または国の地方創生推進交付金等の活用も見据えながら、今後事業を展開していくという考え方で施策を掲載していきたいと考えております。

【委　員】　国の補助金を受けるために施策を考えていくということは必要なことだと思います。戦略の中に挙げておかないと対象になりませんから。

【委　員】　放課後児童クラブについては、施設面積・支援員の不足の具体的な内容は、まだ調査中ということですか。これだけでは働く者とし

ては、どういう働き方になっているのかもわかりづらいです。

【事務局】　支援員の不足が一番の問題となっていますが、それがなぜかということを現課と一緒に分析しながら、働きやすい職場というものを考慮する必要があるかと思います。

【委　員】　支援員さんの日頃の勤務時間とか、夏休み等の勤務時間とか、具体的に示していただけると、質問・意見等が出てきますが、そういうところも含めてお願いします。

【事務局】　現課の方にもそのように伝えます。

③ ワークショップについて

＜宮川係長より、以下の説明＞
総合戦略の基本目標①「しごとをつくり安心して働けるようにする」、基本目標③「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、今後、どの項目に重点を置くのか、また、自分や自分の所属する組織として、どんなことができるのかグループに分かれて、意見交換

④ まち・ひと・しごと創生基本方針２０１９

＜事務局より、以下の説明＞
国が示した時期総合戦略策定についての基本方針について説明。

８．次回の開催について

○創生会議　令和元年度　第３回会議
○開 催 日　令和元年１１月頃を予定
○会　　場　みやま市消防署　１階　会議室

（午前 12 時 00 分　閉会）